

始まりは「出会い」の中に

(ルカ一五・一〜三二)

一月二日、関東地方を襲った大雪の日に「事件」は起こった。ことの始まりは昨年十一月にホテルで奉仕をされた長谷川先生が「先輩のN師が雪で転んだはずみで iPhone 6 を落とした」という知らせを聞いたこと。周りにいた学生たちが機転を利かせ、apple ID で位置を検索するとやはり転んだ場所（埼玉県大宮市某所）に落ちているらしいことが判明。躊躇うN師を説き伏せ彼らは大雪の大渋滞の中を車で移動。たった二三キロを五時間かけ、ついに現地に到着。電話をかけたみるも iPhone は寒さのため電池が切れ無反応。「このへんだ」と目星をつけシャベルを入れると、真っ白な雪の中に黒いカバーが。救出成功の喜びが深夜二時の町にこだました。

閑話休題。今朝の箇所、ルカ一五章

にはイエスがパリサイ人、律法学者たちとの論争の際に語られた三つのたとえが収録されているのだが、今日はこの喩えを「モノ（生き物含）」と「人」の二つに分け、探し求める神と心をいれかえ、神のもとに立ち返る人間の間にある喜びについて考察したい。

一、探し求める神

失われた羊のたとえを読むと「一匹のために他の九九匹を置いていくなんて」と思われる方もいるかもしれないが、羊の習性から考えるとこの行動は妥当なものである。というのも「群」と言う漢字に「羊」が当てられているように、羊は群れをなす動物であり、群れにいることは安全が確保されている状態なのだ。だからこそ羊飼いは群れを離れた一匹を必死で追いかけて、見つけるとおそろくはパニックになったであろうその羊を抱えあげ、大喜びで帰ってくる。この「無くなったものを探し出して喜ぶ」というパターンは次のなくした銀貨のたとえでも共通である。ちなみにここで用いられているドラクマという単位は紀元前三百年頃には羊一匹くらいの価値があったようだが、イエスの時代にはほぼ一デナリくらいの価値に下落していたという。それにしても八野口〜一論吉（一）彼女の懸念さも宣べなるかなである。今のように電灯があるわけではない。彼女はランプをつけ、箒で掃き、五感を研ぎ澄ませて鈍く輝くコインを探し出し、人々に一緒に喜んでと狂喜乱舞した。ひよつとしたらそのお金を用いて彼女はちよつとしたプレゼントの一つも出したかもしれない。ただ嬉しかったのだ。

二、心をいれかえ、立ち返る人

対して「放蕩息子」、あるいは「失われた息子たち」のケースはどうだったろうか。前の二つの喩えに比べると、父親の行動は何とも控えめである。父は出奔した弟息子を自ら探しに行くことはしていない。またむくれる兄息子に対しては手を変え品を変えなだめすかしても、彼の手を無理やり引つ張って祝宴の中に引き入れるようなことはしない。その姿は主体的に捜すというよりもむしろ「待ち」の姿勢である。父は待った。只管に待った。弟が出て行ったその道を見つめ、来る日も来る日も待っていた。そう「岸壁の母」ばりの「待ち」である。兄に対してもそうだ。この語は父の「楽しんで喜ぶのは当然ではないか。」で終わる。つまり父は兄と一緒に祝宴の外に暗がりに居るのだ。そこで父はやはり待っている。兄がとげとげしく「あなた」とではなく「お父さん」と呼び、「お父さん、僕が悪かった。僕の弟が帰ってきたんだから、お祝いだよね」と言って祝宴への扉に手をかけるのを待っているのだ。父が待っていたのは兄にせよ、弟にせよ、彼らが「心をいれかえ」今までの行いと一八〇度ターンして、全く逆の歩みをするのであった。父の喜びの源は彼らの心の一新にあったのだ。

* * *

一八歳の時からやくざ一筋、十年後には目出度く（？）組のナンバーツーにまで出世したものの、覚せい剤販売の事業の中、ミイラ取りがミイラになり、薬物依存に。結局組を破門になってしまった「彼」は語る。「ヤクザになるということは、社会から信用を失っているということ。だからヤクザはヤクザの掟の中に生きるのだが、そこから破門されたとなれば、生きる術を失ったということだ」と。そして収監された刑務所で「転機」は訪れた。知人が差し入れてくれた聖書のことばに目が釘付けになったのだ。「わたしは悪人が死ぬのを喜ばない。かえってその悪人がその罪を悔い改めて生きるのをわたしは喜ぶ。立ち返れ、立ち返れ、お前の悪しき道から。イスラエルの家よ！ どうして、おまえは死んでもよいのだろうか。（エゼキエル三三・一一）」彼は衝撃を受けた。そして「イスラエルの家」のところに自身の名、「進藤龍也」を入れ、何度も読み返した。それから十七年、彼は牧師となり、罪人の友として歩んでいる。神は彼を探し、彼もその呼びかけに答えて一八〇度のターンを鮮やかに決めた。これが聖書のいう悔い改めである。それは「回心」と書く。「改心」ではない。まずは立ち返る。そして神の愛と喜びを体験する。新しい始まりはそこにある。アーメン。